

## 2020年ドバイ国際博覧会日本館基本計画検討会（第3回）-議事要旨

日時：平成30年1月29日（月曜日）13時00分～14時30分

場所：経済産業省本館17階第一特別会議室

### 出席者

- ・委員：彦坂座長、内田委員、江村委員、キャンベル委員、斎藤委員、澤田委員、橋爪委員、吉川委員
- ・幹事省：経済産業省
- ・副幹事省：総務省、文部科学省、農林水産省、国土交通省
- ・参加機関：独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）

### 議事概要

#### 1. 農林水産省からの提案

農林水産省鴨志田研究官から、ドバイ国際博覧会日本館基本計画に対する提案

#### 2. メッセージ、今後の進め方（案）、基本計画案についての意見交換

委員からの主な意見は以下の通り。

- ・今までの検討会をふまえ、全体としてよくまとまっている基本計画案である（意見多数）。
- ・ドバイ博は課題解決型の日本社会の姿勢を示していく千載一遇のチャンスであり、日本が直面している問題に対してどのような取り組みが行われているかを理解でき、来場者と体験が共有できるような展示を目指すべき。
- ・体験を受け止める側（来場者）の意識調査をすることは重要。現地在住者とのアイデアソンなどは設計がある程度固まったら早い段階で実施すべきである。
- ・技術のプレゼンテーションではなくて、課題の共有とその技術的な解決を見せられるのが理想。技術の選定に際しても、日本独自の技術、イノベーションが何かを考えてほしい。
- ・今最先端の技術が、万博が行われる2020年においても最先端であるとは限らないので、設計完了後にも技術の発展に合わせた柔軟な対応ができるといい。
- ・日本の技術を発信する際、日本の文化や伝統とどのように融合させるかが大事。技術はグローバルなものではなく、その土地の文化から生まれるものであるということを示し、日本の独自性を描く必要がある。
- ・日本館では、世界的に認知されているコンテンツ（商品）に、いかに付加価値を付け、日本独自の魅力的なコンテンツとしているかを強調するべき。
- ・ドバイは情報も技術も圧倒的なものが日常に溢れている都市であり、展示では「非日常」の強度を一層高め、強い感動を与える演出をしなくてはならない。

- ・中東にはインドの方も多く、中東に集まる色々な国の人へも日本をプレゼンすべき。
- ・メイドインジャパン、クリエイトオブジャパンだと知られていない何かを示すことが、今回の万博に限らず必要である。例えば地下鉄など、現地ですすでに取り入れられているものを入り口とすると、現地の人々に馴染みやすくわかりやすいのではないかな。
- ・季節をまたぐ博覧会であり、季節感を上手に活かし、正月や春の桜など日本の素晴らしさを展開できる展示にしてほしい。
- ・万博を機に産業間のつながりや新しい発見を産むような、展示前からのプロセスをどうデザインするのが重要。
- ・他国でやるイベント・万博では、日本国内における情報発信が少ない。ロゴマークの公募、国内でドバイ博を体験できるコーナーの設置などの広報活動・仕掛けづくりが必要。他方で、現地での広報活動も重要であり、万博会場にとどめるのではなく、海外での広報活動を強化することで日本館を訪れたいと思う機会を作らなければならない。
- ・アイデアソンなど会期前からの参画プロセスを広げて日本人が万博を知る機会を作る。
- ・「若手」の人材について、例えば、中学生の起業家や、YouTuber、インフルエンサーも含めるなど、その対象をより広く捉えてもいいのではないかな。
- ・一過性ではなく、記録に残るプラットフォームにすることは重要。特に若手の活躍推進は、レガシーというより生きた活用になる。
- ・主催者との連携をはかるべき。待ち時間対策など日本だけでは対応できないこともある。逆に万博運営に貢献できるような技術を積極的に主催側に提案し、日本館だけではなく、万博全体に日本の魅力（技術など）を示すことも検討するべきでは。
- ・展示エリアだけではなく、展示とレストランとの親和性を考えトータルコーディネートする。レストランだけに足を運ぶ人もいるので、接客のあり方や空間の見せ方など、日本館の全体としてのクオリティを確保すべき。
- ・ミラノ博のレシピダウンロードのように、来場者が日本館での経験を思い出として持ち帰れるお土産を用意するのはどうか。
- ・過去の日本館事業をよく分析し、改善すべき点を明確に。
- ・基本計画はあくまでも理想を掲げている。具体化の過程でその理想から離れてしまった日本館もあった。その要因をしっかりと分析し、今後に役立ててほしい。
- ・展示に話が寄りがちだが、社会、産業、宗教等ダイバーシティの観点から人を集め、少し先の社会を議論することも万博出展の価値を高めることになるのでは。

## お問合せ先

商務・サービスグループ 博覧会推進室

電話：03-3501-0289

FAX：03-3501-6203